

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第47集

# 館林市内遺跡発掘調査報告書

— 平成22年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査 —

新宿二丁目遺跡（平22 A 地点）

新宿二丁目遺跡（平22 B 地点）

妙円寺 2 遺跡（平22地点）

館林城跡・城下町（平22地点）

八方遺跡（平22地点）

当郷本郷遺跡（平22地点）

2010

館林市教育委員会

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第47集

# 館林市内遺跡発掘調査報告書

— 平成22年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査 —

新宿二丁目遺跡（平22 A 地点）

新宿二丁目遺跡（平22 B 地点）

妙円寺 2 遺跡（平22地点）

館林城跡・城下町（平22地点）

八方遺跡（平22地点）

当郷本郷遺跡（平22地点）

2010

館林市教育委員会

## 目 次

例 言.....	1
凡 例.....	1
参考文献.....	1
目 次.....	2
挿図目次.....	2
写真図版目次.....	3
第1章 館林市の環境	
1. 地理的環境.....	4
2. 歴史的環境.....	4
第2章 確認調査の概要	6
1. 新宿二丁目遺跡（平22A地点、B地点）.....	6
2. 妙円寺2遺跡（平22地点）.....	8
3. 館林城跡・城下町（平22地点）.....	10
4. 八方遺跡（平22地点）.....	14
5. 当郷本郷遺跡（平22地点）.....	15
写真図版.....	17
報告書抄録.....	23

## 挿図目次

第1図 館林市の位置.....	4
第2図 館林市の地形概念図.....	5
第3図 平成22年度調査遺跡の位置.....	5
第4図 新宿二丁目遺跡.....	6
第5図 新宿二丁目遺跡（平22A地点）トレンチ配置図・土層図.....	6
第6図 新宿二丁目遺跡（平22A地点）出土遺物実測図.....	7
第7図 新宿二丁目遺跡（平22B地点）トレンチ配置図・土層図.....	7
第8図 新宿二丁目遺跡（平22B地点）出土遺物実測図.....	7
第9図 妙円寺2遺跡.....	8
第10図 妙円寺2遺跡（平22地点）出土遺物実測図.....	8
第11図 妙円寺2遺跡（平22地点）トレンチ配置図・土層図.....	9
第12図 館林城跡・城下町.....	10
第13図 館林城跡・城下町概略図（江戸後期）.....	10
第14図 館林城跡・城下町（平22地点）日清フーズ飼料館工場内トレンチ配置図.....	11
第15図 館林城跡・城下町（平22地点）トレンチ配置図.....	11
第16図 館林城跡・城下町（平22地点）1トレンチ土層断面図.....	12
第17図 館林城跡・城下町（平22地点）2トレンチ平面図・土層断面図.....	13
第18図 館林城跡・城下町（平22地点）3トレンチ土層断面図.....	13
第19図 館林城跡・城下町（平22地点）出土遺物実測図.....	14
第20図 八方遺跡.....	14
第21図 八方遺跡（平22地点）トレンチ配置図・土層図.....	15
第22図 当郷本郷遺跡.....	15
第23図 当郷本郷遺跡（平22地点）トレンチ配置図・土層図.....	16
第24図 当郷本郷遺跡（平22地点）出土遺物実測図.....	16

## 写真図版目次

新宿二丁目遺跡（平22A地点）	17
1 - 1 新宿二丁目遺跡（平22A地点）調査地	
1 - 2	1 T (南より)
1 - 3	1 T (西より)
1 - 4	2 T (西より)
1 - 5	土層断面 (南より)
1 - 6	1 T 柱穴
1 - 7	出土遺物
新宿二丁目遺跡（平22B地点）	18
2 - 1 新宿二丁目遺跡（平22B地点）調査地	
2 - 2	土層断面 (南より)
2 - 3	1 T (西より)
2 - 4	出土遺物
妙円寺2遺跡（平22地点）	18
3 - 1 妙円寺2遺跡（平22地点）調査地	
3 - 2	1 T (東より)
3 - 3	2 T (西より)
3 - 4	3 T (西より)
3 - 5	4 T (東より)
3 - 6	5 T (東より)
3 - 7	6 T (東より)
3 - 8	7 T (東より)
3 - 9	土層断面 (南より)
3 - 10	出土遺物
館林城跡・城下町（平22地点）	19
4 - 1 館林城跡・城下町（平22地点）調査地	
4 - 2	1 T (南より)
4 - 3	1 T 堀跡東壁① (西より)
4 - 4	1 T 堀跡東壁② (西より)
4 - 5	2 T (南より)
4 - 6	2 T 東壁 (西より)
4 - 7	2 T 西壁 (東より)
4 - 8	3 T (南より)
4 - 9	3 T 堀跡東壁 (西より)
4 - 10	出土遺物
八方遺跡（平22地点）	20
5 - 1 八方遺跡（平22地点）調査地	
5 - 2	1 T (北より)
当郷本郷遺跡（平22地点）	21
6 - 1 当郷本郷遺跡（平22地点）調査地	
6 - 2	土層断面 (北より)
6 - 3	1 T (西より)
6 - 4	2 T 溝 (西より)
6 - 5	2 T 溝 (東より)
6 - 6	1 T 室 (北より)
6 - 7	出土遺物

# 第1章 館林市の環境

## 1. 地理的環境



図1 館林市の位置

ると、「低台地」と「低地帯」に分けることができる。市域中央部に「低台地」が東西に延びるように所在し、その周辺に「低地帯」が広がる。

この「低台地」は、「邑楽・館林台地」と呼ばれる洪積台地であり、太田市高林から本市中央部を東西に延び、隣接する板倉町まで続いている。また、大泉町古海から本市高根に至る台地の北側に沿って、日本最古の砂丘の一つである埋没河畔砂丘が走っており、本市最高標高点はこの上にある。

「低地帯」は、おもに利根川や渡良瀬川によって形成された沖積低地である。台地北側の低地帯には、旧河道、微高地や自然堤防が目立ち、一方、台地南側の低地帯では、茂林寺沼など大小の沼や湿地帯が形成されている。こうした台地や低地などからなる本市の地形は、北西から南東へ向かって緩く傾斜する傾向が見られ、台地面と低地面の比高差も北部で大きく南部では小さくなっている。「邑楽・館林台地」と呼ばれる洪積台地は、沖積低地から延びる多くの谷地により樹枝状に開析されている。そのなかでも市内最大の谷は、本市中央部を東流する鶴生田川及び城沼にかけての谷で、台地を南北に二分している。こうした洪積台地を開析する谷には、他にも茂林寺沼、蛇沼、近藤沼などの池沼を伴うものが多く、本市景観の特徴のひとつになっている。

## 2. 歴史的環境

館林市内に所在する遺跡は、145箇所である。昭和63年刊行の『館林市の遺跡』(市内遺跡詳細分布調査報告書)には、そのうちの144箇所について詳細が報告されている。

分布調査による採集遺物から大別した、各時代の遺跡数は次のとおりである。

旧石器時代の遺跡3遺跡、縄文時代の遺跡13遺跡(縄文土器のみ採取できた遺跡)、弥生時代の遺跡は0(弥生時代の遺物を採取できた遺跡2遺跡)、古墳時代~平安時代の遺跡(土師器の出土した遺跡)96遺跡(うち縄文時代の遺物も採取できる遺跡は23遺跡)、古墳は17遺跡(古墳総数25基)、中世生産址1遺跡、中世城館址12遺跡、近世城館址2遺跡である(ただし、複合した時代の遺物散布地が見られるため、その中心になると考えられる時代でまとめたものである)。

これらの遺跡の分布は、地形的な特徴と大きく関わっていることが観察される。館林市内に所在する遺跡の時代的変遷と地形的な関わりを概略してみると、次のようになる。

### 〈旧石器時代〉

この時代の遺跡は、市内の標高の高い地域に集中する傾向を見せる。邑楽・館林台地の北西に沿って、鞍掛山脈と地元で呼ばれる内陸河畔砂丘(自然堤防)上に、その多くが確認されている。

### 〈縄文時代〉

この時代になると、遺跡数が増えるとともに洪積台地上に営まれるようになる。前期や中期の遺跡は、池沼や谷地を望む舌状台地上の平坦面に確認されることが多い。後期以降は遺跡数は減少し、その所在は、台地の斜面から微高地に移る傾向がある。後・晚期の包含層等は低地(沖積地)に及ぶ。

### 〈弥生時代〉

弥生時代の遺跡として確認されたものはないが、微高地や台地の斜面等で、遺物などがわずかに確認されている。

### 〈古墳時代〉

前期の遺跡は少ない。遺跡は、洪積台地の斜面からテラス状の微高地に所在することが多く、この傾向は、弥生時代の遺物散布に似ている。中期には、遺跡の数が増えるとともに、その所在は、台地の斜面から台地上の平坦面へと移行する。後期には、遺跡数は増大し、台地上の平坦部に所在する場合が多い。墳

館林市は、群馬県の南東部、関東地方のほぼ中央部に位置する人口約8万人の都市である。市域は東西約15.5km、南北約8.0kmと東西に長く、総面積は約60km<sup>2</sup>である。北は渡良瀬川を隔てて栃木県に、東は邑楽郡板倉町に、南は谷田川を隔てて邑楽郡明和町に接する。明和町の南には利根川が東流し、群馬県一埼玉県の県境となっている。県庁所在地の前橋市までは約50km、東京(台東区浅草)へは約65kmの距離にあり、首都圏との結びつきも強い。

群馬県東南部は、「邑楽・館林」地域と呼ばれ、群馬県の中では低地に位置している。館林市の標高は、15m台(大島町東部)から33m台(高根町)であり、おむね平坦であるといえる。本市の地形を概観す

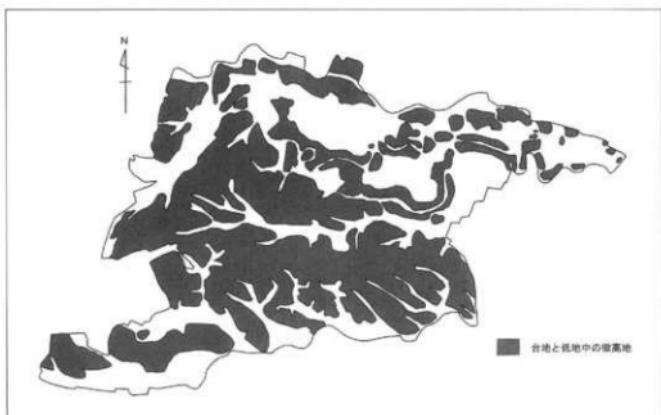
墓としての古墳は、25基が残存している。古墳群が2箇所あり、一つは日向地区を中心とする邑楽・館林台地上、もう一つは高根地区を中心とする内陸河畔砂丘にある。その他単独のものも多いが、そのいずれもが谷や谷地等を見おろす洪積台地上に所在している。

#### 〈奈良・平安時代〉

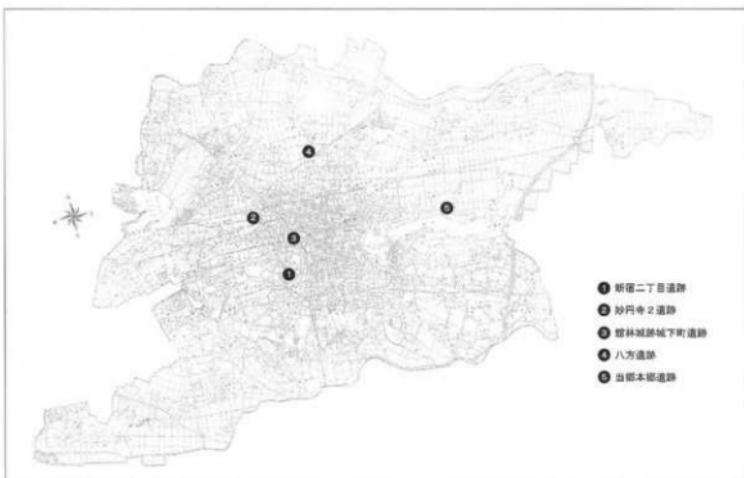
この時代の遺跡は急増する。台地の内部や全面で遺物の採取ができることから、この時代以降は台地上に普遍的に集落等が営まれてきたことを示唆している。

#### 〈中世・近世〉

この時代の城館址については、伝説的な要素が多く実体ははっきりしないが、中世末には館林城が築かれ、近世には館林城を中心として城下町が形成された。



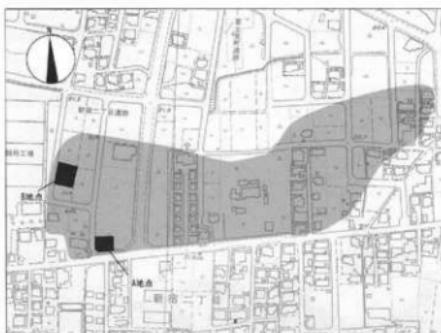
第2図 館林市の地形概念図



第3図 平成22年度調査遺跡の位置

## 第2章 確認調査の概要

### 1. 新宿二丁目遺跡（平22A地点、B地点）



第4図 新宿二丁目遺跡（1:5000）

の台地上には、急激に宅地化されている。

今回の調査地は、埋蔵文化財包蔵地の西端にあたる。新宿二丁目遺跡内において、本年度は2箇所の確認調査を実施し、それぞれA地点、B地点とした。以下にその概要を示す。

#### 1 A 地点

##### (1) 調査の概要

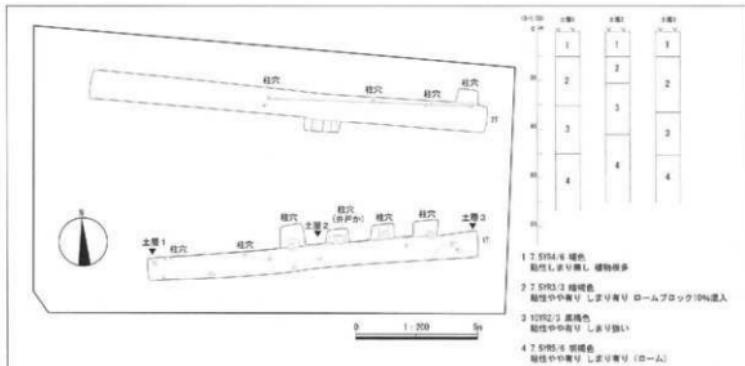
新宿二丁目遺跡（平22A地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ東西方向に2本のトレンチを設定し、土木重機により表土を除去しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後は土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認・検出を行った。現地表面からローム層までの深度は各トレンチで約80cmであった。

##### (2) 検出した遺構

トレンチ内を人力で精査した結果、1、2トレンチで柱穴を多数確認した。柱穴の間隔は1.8m前後である。柵列、もしくは獨立柱建物の柱穴と考えられる。柱穴はローム層上部の黒褐色層を掘り込んでいる。湧水を伴う土坑もあり井戸の可能性も考えられる。

##### (3) 出土した遺物

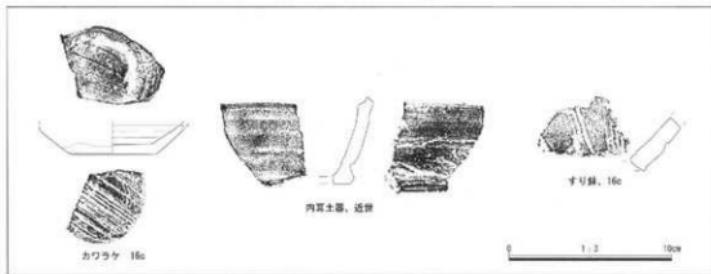
1トレンチのピット内から、中世のカワラケやすり鉢が出土している。その他、近世の内耳土器や肥前系の磁器片が出土している。



第5図 新宿二丁目遺跡（平22A地点）トレンチ配図図（1:200）・土層図（1:20）

#### (4) まとめ

現在調査地の南には、東西に道路が走っている。この道は近世でも街道として利用されていたことから、確認した遺構は街道と関連した何らかの建造物の痕跡であると考えられる。さらに遺構から中世の遺物が出土したことから近世以前からこの道が街道として機能していたことが推測される。



第6図 新宿二丁目遺跡（平22A地点）出土遺物実測図（1：3）

## 2 B地点

#### (1) 調査の概要

新宿二丁目遺跡（平22B地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ東西方向に3本のトレンチを設定し、土木重機により表土を除去しつつ開削ローム層まで掘り下げた。その後は土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認・検出を行った。現地表面からローム層までの深度は各トレンチで約40cmであった。

#### (2) 検出した遺構

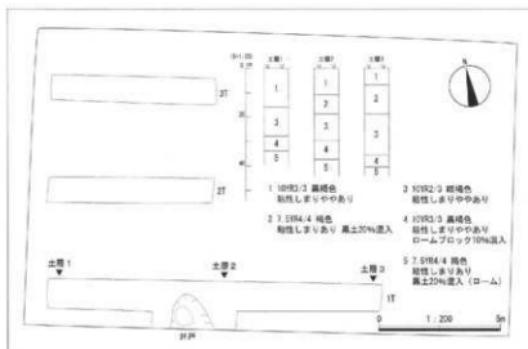
1トレンチで井戸を1基確認した。

#### (3) 出土した遺物

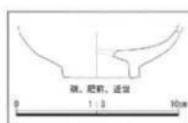
遺構に伴わないが、近世の瀬戸・美濃系の陶器片や肥前系の陶器片が出土した。

#### (4) まとめ

井戸や近世の遺物が出土したことから周辺に近世の遺構が存在する可能性がある。A地点の遺構との関係は不明である。

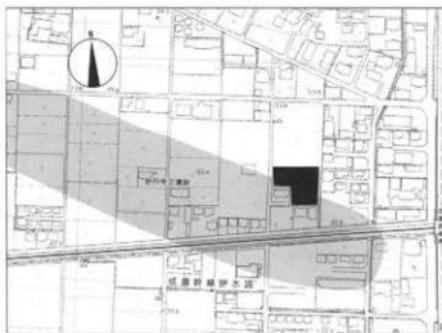


第7図 新宿二丁目遺跡（平22B地点）  
トレンチ配置図（1：200）・土層図（1：20）



第8図 新宿二丁目遺跡  
(平22B地点)  
出土遺物実測図  
(1：3)

## 2. 妙円寺 2 遺跡（平22地点）



第9図 妙円寺 2 遺跡（1：5000）

所在地  
館林市北成島町字妙円寺1798-4  
調査原因 宅地造成  
調査期間  
平成22年8月2日～8月13日  
調査面積 93m<sup>2</sup>

### 遺跡周辺の環境

妙円寺 2 遺跡は、東武鉄道小泉線成島駅の東約 1km に位置する。地形的には、鶴生田川の支谷が枝状に入り込んだ舌状台地の南斜面に帯状に広がっている。妙円寺の地名から寺院跡の存在が示唆される場所である。さらには、中世の遺物多くが出土した天神遺跡や、中世の大規模な溝が確認された栄町遺跡があることから中世の遺構の存在が示唆される

遺跡である。

本遺跡の調査は、今回が初めてである。

#### (1) 調査の概要

妙円寺 2 遺跡（平22地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ、東西方向に 7 本のトレーナーを設定し、土木重機により表土排除を行った。表土以下の土は土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認・検出を行った。現地表面からローム層までの深度は、一番深い場所は調査区の西で約 20cm。一番深い場所は調査区南東で 60cm であった。調査区はかつて西から南東に向かって谷になっていたようである。

#### (2) 検出した遺構

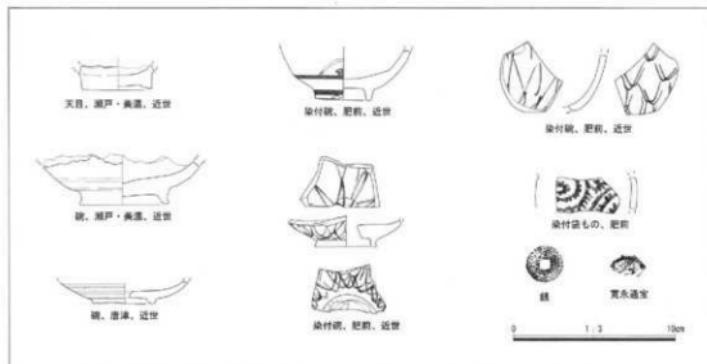
溝を 9 条、井戸を 1 基、土坑及びピットを多数確認した。溝は、ローム層の上に被さる褐色土と黒色土を掘り込んで作られている。また、用途不明の落ち込みを多数確認したが、その多くは近年掘られたようである。溝は田畠を区画する溝と考えられる。

#### (3) 出土した遺物

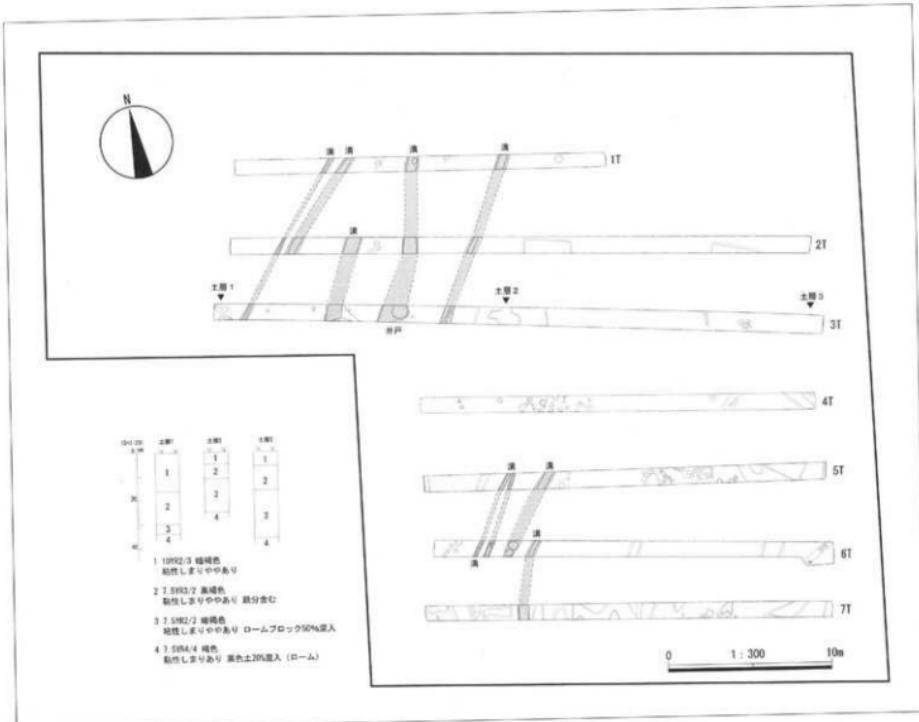
遺構から近世の瀬戸・美濃系の陶器や肥前系の磁器の破片、「寛永通宝」が出土している。

#### (4) まとめ

調査地は耕地整理が行われ現在の区画になったということであった。今回確認した遺構は、耕地整理以前の近世の田畠の区画溝と、耕地整理を行った際の掘り込みと考えられる。



第10図 妙円寺 2 遺跡（平22地点）出土遺物実測図（1：3）



第11図 紗円寺2遺跡(平22地点) トレンチ配置図(1:300)・土層図(1:20)

### 3. 館林城跡・城下町 (平22地点)



第12図 館林城跡・城下町 (1:5000)

近世の城郭の形が整えられた。その後、幕末まで7家の大名による藩政の中心となった。現在、本丸や三の丸に土塁などの遺構の一部が残っている。過去に本丸や三の丸の調査などが数回行われている(昭和17年度、平成元・2・5・6・7・11・12・13・20年度)。今回の調査地は、城下町の南西の出入口「小泉口」の南にある。近代には、製粉会社の工場用地となり現在は、日清フーズ㈱館林工場(朝日清製粉グループ本社の子会社)となっている。工場内には、城下町の堀跡が一部残されている他、土塁の痕跡も残されている。

#### (1) 調査の概要

館林城跡・城下町(平22地点)の確認調査は、工事予定期域の地形に合わせ、南北方向に3本のトレンチを設定し、土木重機により表土排除を行った。表土以下の土は土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認・検出を行った。激しい湧水があり、ポンプを使用し水をくみ出しながらの調査となつた。

#### (2) 検出した遺構

##### ① 城下町の堀跡

1トレント南端、及び3トレントで、城下町の堀跡を確認した。工場内に残された堀跡の延長線上にあり東西に延びると考えられる。発掘範囲が狭小のため、堀の幅は不明である。堀跡の覆土から近代の遺物が出土していることから近代に工場用地を造成する際に埋められたと考えられる。

##### ② 城下町の土塁跡

1トレント及び3トレントで、城下町の土塁跡の痕跡を確認した。工場内には現在製粉記念館が建っている高台がある。これが東西に延びる土塁の痕跡と考えられる。今回、その延長線上にあるトレントでも土塁の痕跡を確認した。1トレント北端では、削平されているため状態は悪くわずかだが、粘性のある土をほぼ水平に何層にも突き固め版築状に積まれた土層を確認した。また、3トレントの一部でもローム層の上に異なる土を重ねた痕跡があった。これら城郭の土塁を修築する際に用いられる版築工法の痕跡を確認したことから削平された土塁一部と判断した。土塁の幅や高さは、そのほとん

#### 所 在 地

館林市栄町378-1、379-1、2650-2の一部

2661-3

調査原因 工場附属建物

調査期間 平成22年9月9日～10月1日

調査面積 194m<sup>2</sup>

#### 遺跡周辺の環境

館林城跡・城下町は、館林市街地の所在する北部の台地全面に広がっている。城郭中心部は、邑楽・館林台地から城沼に突出する舌状台地の突端にあり、城下町はその西の台地上にある。北の旧矢場川により形成された低地と、南の鶴生田川に挟まれている。館林城は中世から近世にかけての城郭で、戦国時代に赤井氏によって築かれ、柳原康政の入城により



第13図 館林城跡・城下町概略図(江戸後期)

「館林市史特別編第2巻」より転載

どが削平されているため明らかではない。

(3) 近代の建造物の基礎

2トレンチでは、近代の建造物の基礎を確認した。トレンチの東壁では、直径20~30cmほどの玉石が規則的に積んであり、それを固定するために玉石の間には砂や砂利が敷き詰められている。トレンチ西壁では、6基の柱穴を確認した。またトレンチの床面の一部にも玉石が敷き詰められていた。現地には、1902(明治35)年建築され1908(明治41)年に現地に移築された「小袋倉庫」と呼ばれた建造物があった。玉石は、その建造物の基礎に使用された割石と考えられる。

(4) 土坑

1トレンチの中央部で確認した。長軸約2m、短軸約1mの長方形である。長軸方向は北東に振れていた。遺物は出土していないため時期や性格は不明である。

(3) 出土した遺物

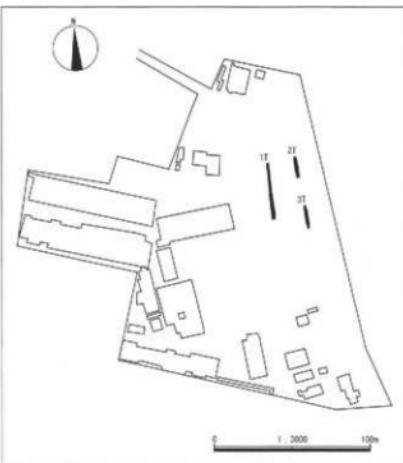
遺物について、ほとんどが堀跡に流れ込んだ土中から出土している。中世の瀬戸・美濃系の陶器や近世の肥前系の磁器、さらに近代の陶磁器片も出土している。特に、高級陶器である志野や織部が注目される。

(4) まとめ

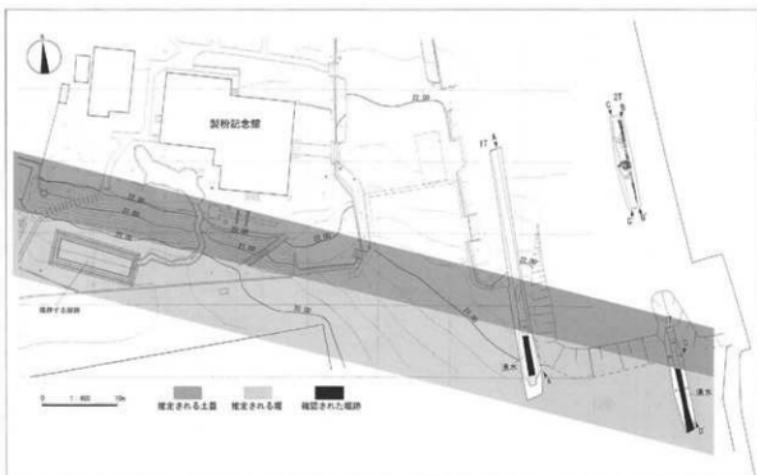
工場内に残る堀跡と近世の絵図から、調査区域には近世の館林城下町の外堀の存在が予想されていたが、今回の調査でそれが裏付けられた。調査区域の地形は、工場内に残る堀跡より北側の旧城下町だった標高の高い部分と、南側の水田部分であった低地に分けられる。地形は北から南に傾斜しており堀はこの自然地形を利用して修築したものと考えられる。遺物については高級陶磁器が出土しており、城郭らしい遺物の出土様相である。

その他、近代の建造物の基礎を確認した。

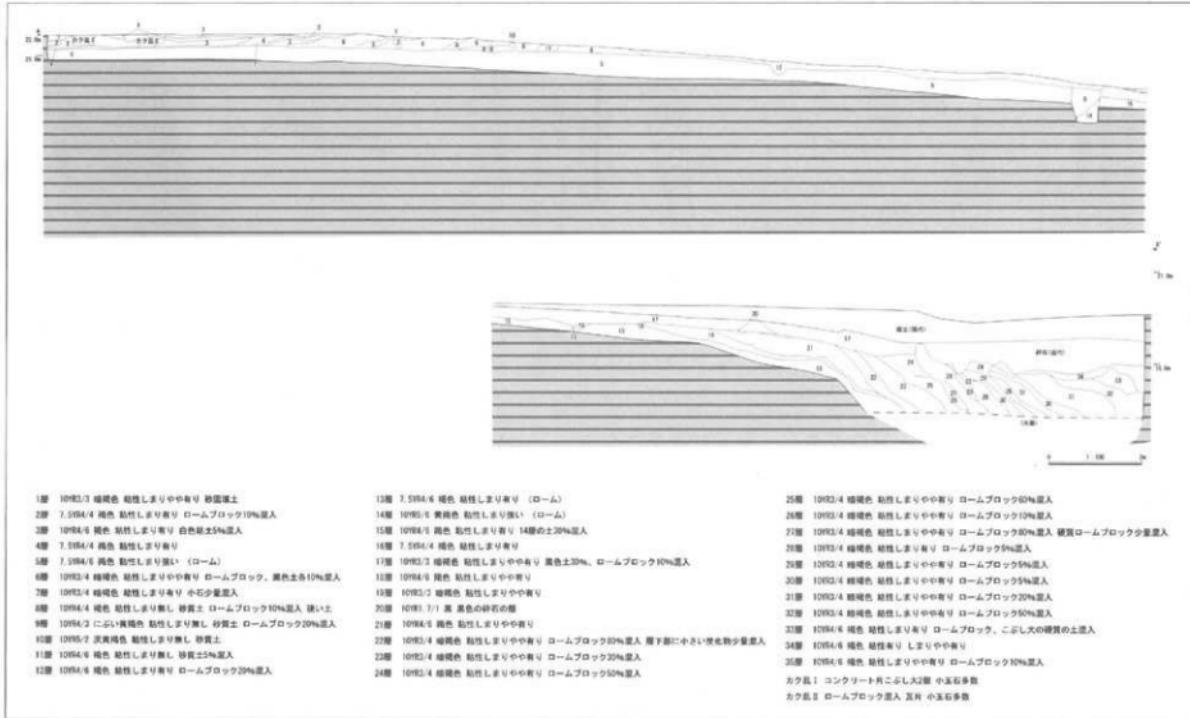
市内では近代の遺構の調査例は少ないため館林市域の近代化について考える上での貴重な成果である。



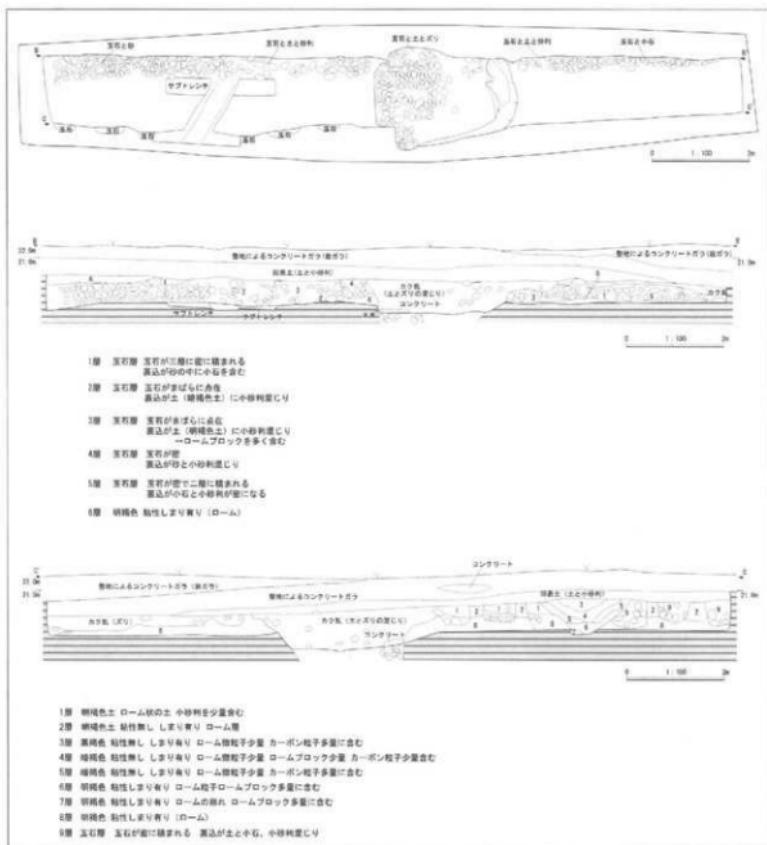
第14図 館林城跡・城下町 (平22地点)  
日清フーズ㈱館林工場内トレンチ配置図 (1 : 3000)



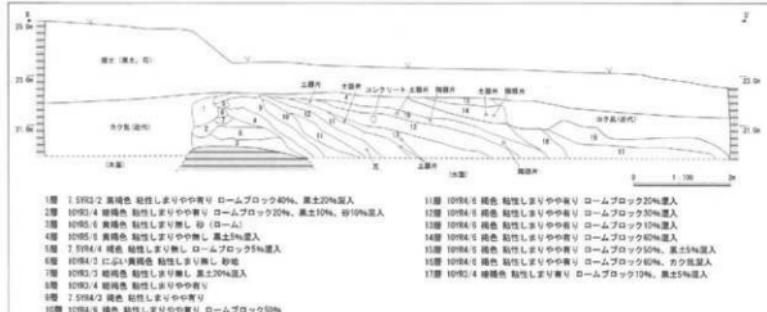
第15図 館林城跡・城下町 (平22地点) トレンチ配置図 (1 : 600)



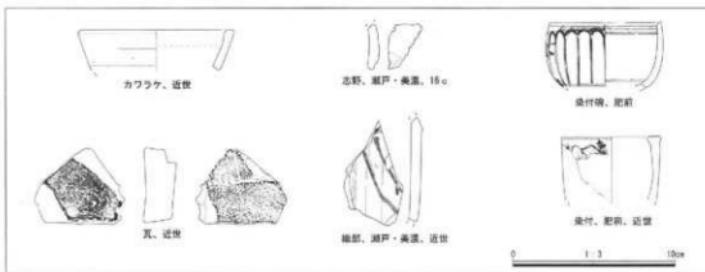
第16図 館林城跡・城下町(平22地点) 1トレニチ土層断面図 (1:100)



第17図 館林城跡・城下町(平22地点) 2トレーナー平面図・土層断面図 (1:100)



第18図 館林城跡・城下町(平22地点) 3トレーナー土層断面図 (1:100)



第19図 館林城跡・城下町（平22地点）出土遺物実測図（1：3）

#### 4. 八方遺跡（平22地点）



第20図 八方遺跡（1：5000）

##### 所 在 地

館林市足次町字八方2865-1

調査原因 宅地造成

調査期間

平成22年12月8日～12月13日

調査面積 93m<sup>2</sup>

##### 遺跡周辺の環境

八方遺跡は、東武鉄道佐野線渡瀬駅の西約0.5kmに位置する。地形的には、邑楽・館林台地の北辺にあたり、渡瀬川の氾濫原に突出する馬の背状の舌状台地上に立地する。すぐ北側には、旧矢場川の可道跡が残っている。過去に數十回調査が行われており（昭和57年～61年度、平成5・7・8・11・13・17・18年度）古墳時代の住居跡や中世の遺構が数多く検出している。

##### （1）調査の概要

八方遺跡（平22地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ南北方向に2本のトレントを設定し、土木重機により表土を除去しつつ関東ローム層まで掘り下げた。その後は土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認・検出を行った。現地表面からローム層までの深度は20cm～100cmであった。

##### （2）検出した遺構

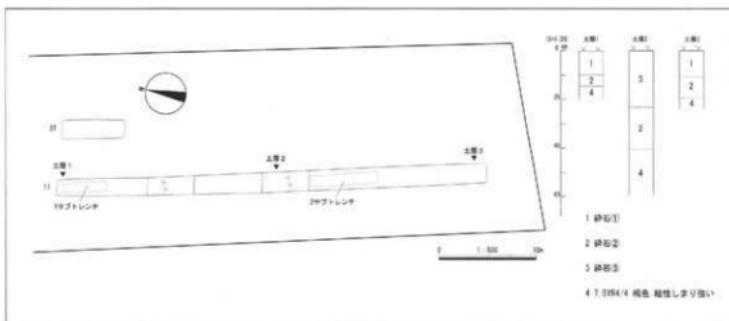
調査区は、以前資材置き場として利用されていたため地下の状況は非常に悪い。ローム層は大きく削平されていた。重機などで当時の地表面を整地した後に碎石を入れて土地の改良を行ったようである。

##### （3）出土した遺物

土師器や陶器の小破片が出土したが、遺構に伴うものではない。

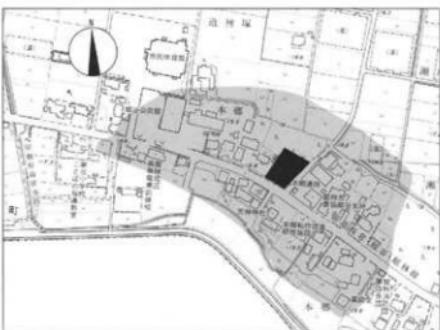
##### （4）まとめ

過去の開発により遺構の確認はできなかった。



第21図 八方遺跡（平22地点）トレーン配置図（1：500）・土層図（1：20）

## 5. 当郷本郷遺跡（平22地点）



第22図 当郷本郷遺跡（1：5000）

査は、過去に2回行われている（平成5・19年度）。目立った遺構・遺物は確認していない。

### （1）調査の概要

当郷本郷遺跡（平22地点）の確認調査は、工事予定区域の地形に合わせ東西方向に2本のトレーンを設定し、土木機により表土を除去しつつ開削ローム層まで掘り下げた。その後は土層断面の観察を行いつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認・検出を行った。現地表面からローム層までの深度は約70cmであった。

### （2）検出した遺構

トレーン内を人力で精査した結果、溝1条と土坑を多数確認した。溝は、およそ東西方向に走行する。幅は約60cm、東から西に深くなっている。土坑の性格は不明なことが多いが、1トレーン西側で確認した土坑は、その形からイモなどを貯蔵する室だと考えられる。

なお各トレーンの土層断面には、ローム層に被さる黒色土を振り込む柱穴のようなものが規則にならんでいた。掘立柱建物の柱かと思われたが、精査したところ、肥料用の石灰が混ざっていたことから近年の畑の耕作によるものと判断した。出土した遺物は、近世の陶磁器片がほとんどである。

### （3）出土した遺物

溝からは、丹波産のすり鉢（近世）が出土した。1トレーンの土坑から須恵器が出土した。

### （4）まとめ

溝は、出土した遺物から近世に開削されたと考えられるがその性格は不明である。また窓は、地権者の話によると近代に掘られたものだった。その他、ピットから須恵器が出土したため付近に古代の遺構が存在する可能性がある。

### 所在地

館林市当郷本郷231-1・3

調査原因 個人住宅

調査期間

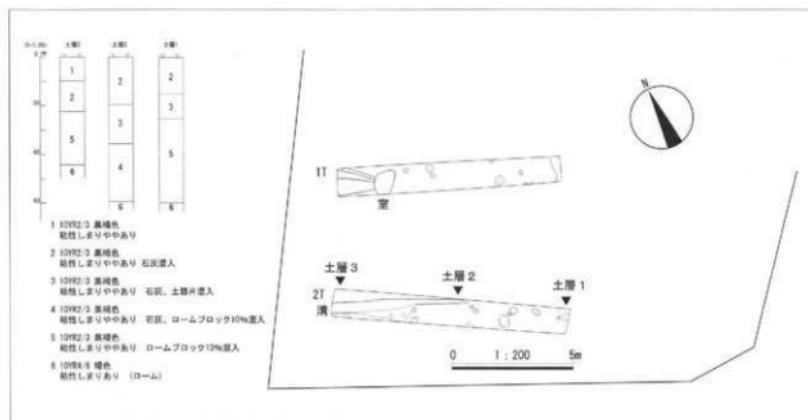
平成22年12月14日～12月20日

調査面積 19m<sup>2</sup>

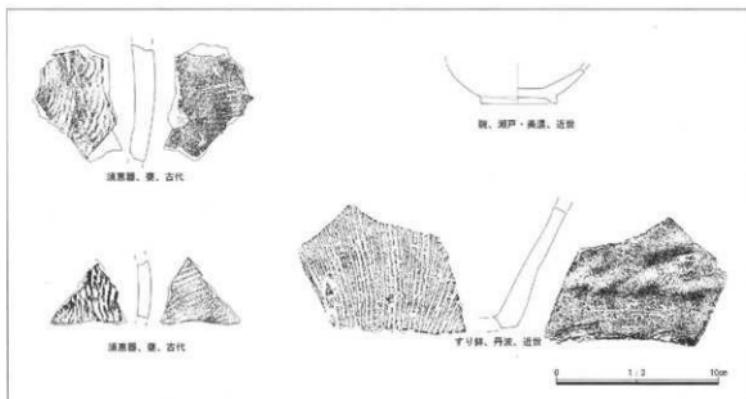
### 遺跡周辺の環境

当郷本郷遺跡は、善長寺の東約0.4kmに位置する。地形的には、邑楽・館林台地の東部の、城沼北岸の舌状台地上にあり、遺跡の北側は渡良瀬川に連なる低地となっている。

付近には、市内に現存する古墳で、最も良い状態の前方後円墳である山古山古墳がある。東側には、中世の溝を確認した当郷遺跡がある。本遺跡の調



第23図 当郷本郷遺跡（平22地点）トレンチ配置図（1：200）・土層図（1：20）



第24図 当郷本郷遺跡（平22地点）出土遺物実測図（1：3）

## 新宿二丁目遺跡（平22A地点）

(写真図版1)



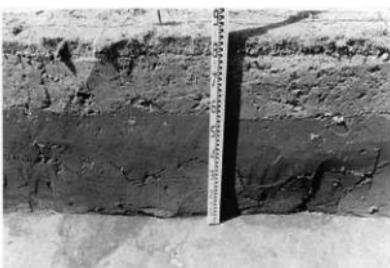
1-1 新宿二丁目遺跡（平22A地点）調査地



1-2 新宿二丁目遺跡（平22A地点）1T（南より）



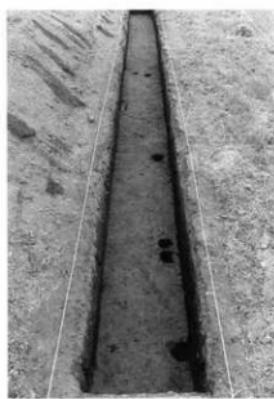
1-3 新宿二丁目遺跡（平22A地点）  
1T（西より）



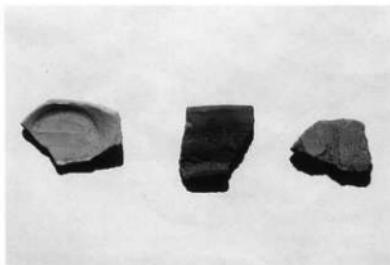
1-5 新宿二丁目遺跡（平22A地点）土層断面（南より）



1-6 新宿二丁目遺跡（平22A地点）1T 柱穴



1-4 新宿二丁目遺跡（平22A地点）  
2T（西より）

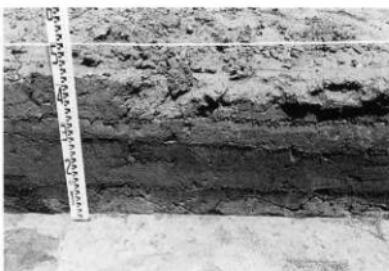


1-7 新宿二丁目遺跡（平22A地点）出土遺物

## 新宿二丁目遺跡（平22B地点）



2-1 新宿二丁目遺跡（平22B地点）調査地



2-2 新宿二丁目遺跡（平22B地点）土層断面（南より）



2-3 新宿二丁目遺跡（平22B地点）  
1T（西より）



2-4 新宿二丁目遺跡（平22B地点）出土遺物

## 妙円寺2遺跡（平22地点）



3-1 妙円寺2遺跡（平22地点）調査地



3-2 妙円寺2遺跡（平22地点）1T（東より）



3-3 妙円寺2遺跡（平22地点）  
2T（西より）



3-4 妙円寺2遺跡（平22地点）  
3T（西より）



3-5 妙円寺2遺跡（平22地点）  
4T（東より）



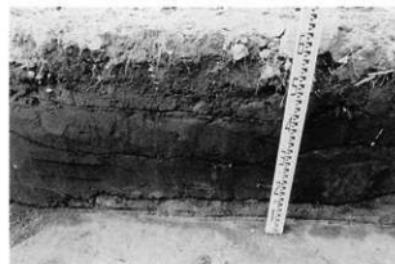
3-6 妙円寺2遺跡（平22地点）  
5T（東より）



3-7 妙円寺2遺跡（平22地点）  
6T（東より）



3-8 妙円寺2遺跡（平22地点）  
7T（東より）



3-9 妙円寺2遺跡（平22地点）土層断面（南より）



3-10 妙円寺2遺跡（平22地点）出土遺物

## 館林城跡・城下町（平22地点）

（写真図版4）



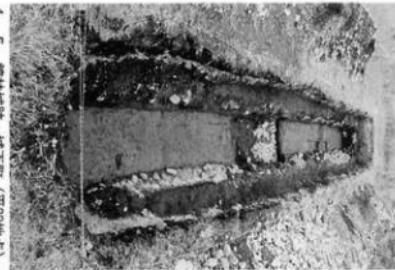
4-1 館林城跡・城下町（平22地点）調査地



4-2 館林城跡・城下町（平22地点）



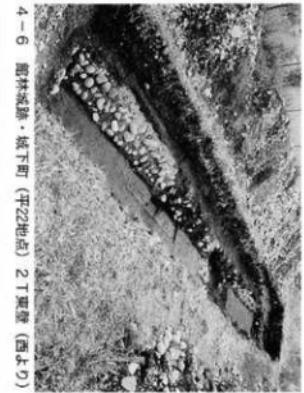
4-4 館林城跡・城下町（平22地点）1T（西より）



4-5 館林城跡・城下町（平22地点）



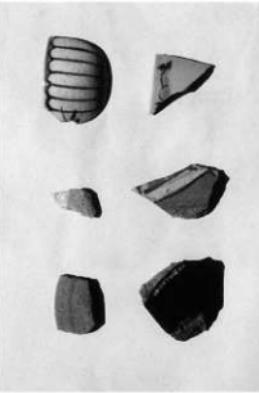
4-7 館林城跡・城下町（平22地点）2T（東より）



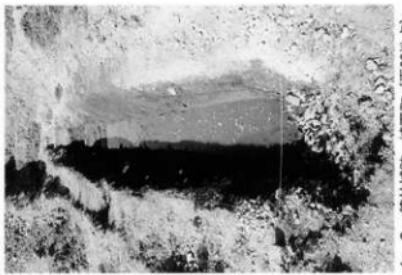
4-6 館林城跡・城下町（平22地点）2T（東より）



4-9 鰐林城跡・城下町(平22地点)3T 番断面(西より)



4-10 鰐林城跡・城下町(平22地点)出土遺物



4-8 鰐林城跡・城下町(平22地点)

3T(南より)

## 八方遺跡(平22地点)



5-1 八方遺跡(平22地点)調査地



5-2 八方遺跡(平22地点)1T(北より)

当郷本郷遺跡（平22地点）



6-1 当郷本郷遺跡（平22地点）調査地



6-2 当郷本郷遺跡（平22地点）土層断面（北より）



6-3 当郷本郷遺跡（平22地点）  
1T（西より）



6-4 当郷本郷遺跡（平22地点）  
2T溝（西より）



6-5 当郷本郷遺跡（平22地点）  
2T溝（東より）



6-6 当郷本郷遺跡（平22地点）1T室（北より）



6-7 当郷本郷遺跡（平22地点）出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	たてばやししないいせきはっくつちょうさほうこくしょ								
書名	館林市内遺跡発掘調査報告書								
副書名	平成22年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査				卷次	_____			
シリーズ名	館林市埋蔵文化財発掘調査報告書				シリーズ番号	第47集			
編集者名	堀越峰之				編集機関	館林市教育委員会			
編集機関所在地	〒374-8501 群馬県館林市城町1番1号								
発行年月日	2011(平成23)年3月31日								
市町村コード	102075								
所収遺跡	所在地	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因		
新宿二丁目遺跡 (A地点)	新宿二丁目	61	361409	1393135	20100512～20100528	38.35m <sup>2</sup>	個人住宅		
新宿二丁目遺跡 (B地点)	新宿二丁目	61	361411	1393134	20100707～20100710	31.5m <sup>2</sup>	個人住宅		
妙円寺2遺跡	北成島町字妙円寺	27	361451	1393119	20100802～20100813	93m <sup>2</sup>	宅地造成		
館林城跡・城下町	栄町	33	361433	1393149	20100909～20101001	194m <sup>2</sup>	工場		
八方遺跡	足次町字八方	18	361526	1393210	20101208～20101213	93m <sup>2</sup>	宅地造成		
当郷本郷遺跡	当郷町字本郷	42	361436	1393350	20101214～20101220	19m <sup>2</sup>	個人住宅		
遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物	特記事項			
新宿二丁目遺跡 (A地点)	散布地	時代不明	柵列2(中世～近世)		かわらけ・陶磁器片	慎重工事			
新宿二丁目遺跡 (B地点)	散布地	時代不明	井戸1(近世)		陶磁器片	慎重工事			
妙円寺2遺跡	散布地	平安	溝9・井戸1(近世)		陶磁器片	慎重工事			
館林城跡・城下町	城館跡	近世	堀跡1(近世) 建物基盤1(近代)		かわらけ・陶磁器片	工事立会			
八方遺跡	集落跡	古墳～平安	なし		陶磁器片	慎重工事			
当郷本郷遺跡	散布地	平安	溝1(近世) 室1(近代)		陶磁器片	慎重工事			

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第47集

## 館林市内遺跡発掘調査報告書

— 平成22年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査 —

編集・発行 館林市教育委員会 文化振興課 文化財係（館林市文化会館内）

〒374-8501 群馬県館林市城町1番1号 電話0276-72-4111

印 刷 朝日印刷工業株式会社

発行年月日 平成23年3月31日

© Tatebayashi City Board of Education 2011 Printed in Japan



文化財愛護シンボルマーク

<http://www.city.tatebayashi.gunma.jp/bunka/>